



当院に於ける経口 GLP-1 製剤セマグルチド 使用上の工夫

西条中央病院 糖尿病内科 健康管理センター長

藤原 正純

● 要旨

2 型糖尿病治療剤のインクレチン製剤である経口 GLP-1 (glucagon-like peptide-1) 製剤セマグルチドはいくつもの服用条件があり、またとくに増量の際に嘔気などが発現しやすいことから、ドロップアウトする症例も少なくない。今回、セマグルチド使用に際し、当院での工夫を紹介させて頂く。

キーワード：2 型糖尿病，経口 GLP-1 製剤，セマグルチド，頻度と量の調整

1 はじめに

2 型糖尿病治療剤のうち GLP-1 製剤は皮下注射が主であったが、経口 GLP-1 製剤であるセマグルチドが登場したことで、患者は注射治療から解放されることとなった。しかしながら、セマグルチドの服用条件は、「空腹時（1 日の最初の飲食前）に必ず服用」「服用はコップ半分（約 120 mL 以下）の水で」「錠剤をかみ砕いたり粉碎したりしない」「飲み物を飲んだり、食事をしたり、他の薬を服用する場合は、セマグルチド服用後 30 分経ってから」と、患者によってはハードルが相当高いものとなる。また、服用し始めは胃腸障害が起きやすく、少ない量から開始するが、増量時の胃腸障害も多数経験する。

こうした理由により、セマグルチド服用継続を断念する患者を経験することも少なくないが、本稿では、当院でのセマグルチド使用上の工夫を紹介させて頂く。

2 当院に於ける工夫

当院では、セマグルチド処方開始時に以下の説明文を患者に渡して対応している。

《経口セマグルチド起床時服用について》

- ・糖が高い時だけ下げる作用があります。
- ・単剤では低血糖になりにくいです。
- ・胃が空の状態でないとう効果は出ません。服用後も 30 分飲食をご遠慮ください。
- ・毎日服用ですが、嘔気があれば、週 3 回、2 回と自由に回数を減らしてください。

即ち、セマグルチド開始時の 3 mg での服用で嘔気など不快な症状が生じた場合は、患者の判断で服用頻度を減らす方法としているが、これは同薬剤の半減期が約 1 週間と長いことから、理にかなったものであると考えている¹⁾。

また、セマグルチド 3 mg から 7 mg へ増量する

際、例えば28日分を処方する場合は、「3 mg 14日分」と「7 mg 14日分」を処方し、7 mgの服用で嘔気が強くなった場合は、これも患者の判断で服用頻度を減じたり、3 mg服用に戻すことも可能であると説明している。消化器症状が出た際のレスキューとして対応している。7 mgから14 mgへの増量の際も同様である。

加えて、セマグルチド服用により、患者自身に食事での満腹感がより早く出る感覚、血糖値の低下、体重の減少を実感して頂くことも、服用継続に繋がるものであると考えている。

これらの工夫を行うことで、当院でのドロップアウト症例は減り、また、服用を希望する患者も増えてきている。



3 今後への期待

それでもなお、当院ではセマグルチドを処方した患者のうち約3割は継続に至っていない。ドロップアウトの理由で多いものは、「起床時服用後30分間絶飲食」の条件で、糖尿病患者は多剤を併用することも多く、朝の忙しい時間帯に、食事のみならず、他剤の服用も30分間控えるよう要求することが困難な患者も多い。

注射製剤から経口製剤への移行は、多くの患者にとって福音であるが、今後製剤学的工夫がなされるなどにより服薬条件が緩和され、とくに他の薬剤と一緒に服用可能になることを強く期待する。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：なし

文 献

- 1) Ikushima I, Jensen L, Flint A, Nishida T, Zacho J, Irie S: A Randomized Trial Investigating the Pharmacokinetics, Pharmacodynamics, and Safety of Subcutaneous Semaglutide Once-Weekly in Healthy Male Japanese and Caucasian Subjects. *Adv Ther* **35**: 531-544, 2018.

How to Prescribe Oral Glucagon-Like Peptide 1 (GLP-1) Receptor Agonist, Semaglutide, in Our Hospital

Masazumi FUJIWARA

Department of Diabetology and Health Care Centre Administrator,
Saijo Central Hospital

Abstract

It is very difficult for diabetic patients to prescribe oral glucagon-like peptide 1 (GLP-1) receptor agonist, Semaglutide because lots of digestive problems including nausea and its medication method (keep empty for 30 minutes after taking). They take oral Semaglutide to decrease the frequency and dose as they like under their general conditions in our hospital. And so patients continue to oral Semaglutide with their will. Oral Semaglutide may be an effective option in type 2 diabetes by how to take it.

COI (conflicts of interest) are none.

Key words: type 2 diabetes, oral glucagon-like peptide 1 (GLP-1) receptor agonists, Semaglutide, Regulation of frequency and dose as patients like
